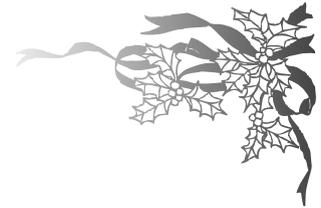




日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第410号 2009年12月13日発行



祈り 変動する世界を見つめて

司祭 ヨハネ 山根 貞夫

の音信を伝えることが出来ますように。

わたしたちが生涯の中で難しい複雑な問題に直面するような時にも、あなたのみ霊に委ねることが出来ますように。

神さま、わたしたちの未来はわたしたちで決めることは出来ません。神さまはわたしたちの到着地を既に決めて、わたしたちの歩みを見守りながら待っております。

わたしたちはそのことを思い祈っています。

先日、アメリカ聖公会メイン教区 (Episcopal Diocese of Maine) 制定の以下のお祈りが届きましたので、ご紹介いたします。

父と聖霊とともに一体であつて世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。」アーメン

* — * — *

「変わることにない力、光の源である神、わたしたちの母であり父である神よ。当教区のすべての教会が変動する時代に対応する教会となるために幻 (Vision) と知恵 (Wisdom) を与えてください。また、粘り強く隣人に新しい独創的な方法で喜び

日本聖公会が宣教開始百周年記念の礼拝を行なつてから半世紀が過ぎ9月には東京で宣教開始百五十周年記念の礼拝が行なわれました。「こぎ出せ、沖へ」確かにわたしたちは新しい思いをもって歩み出しました。船が大海を航行するためには常に航行している船の位置と針路を見極めていなければ航路を誤る事になるでしょう。そのために羅針盤と星座観測は欠かせないことです。わたしたちの人生を航路に例えるなら、羅針盤は聖書、星座観測は聖霊の導きということになるでしょうか。

最近の聖公会には多種多様な問題がおきており揺れ動いています。「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも知らない。ただ、父だけがご存じである。」(マタイによる福音書24章36節) どのような時に歩むわたしたち。航路を誤ることなく祈りつつ歩み行きたいと思えます。

(やまね さだお 大阪教区退職司祭 菰野聖マリア教会所属)

私の教会との出会いは、韓国で小さい頃クリスマスに配られるお菓子や可愛い絵葉書をもらう為に買ったことが全てでした。成人になってから近所の

かし、その時思いました。引越しをするようになったら、絶対教会には近づかない！と。その後引越しをし、教会とは関わりのない生活を送っていた時、ある聖公会のシスタ

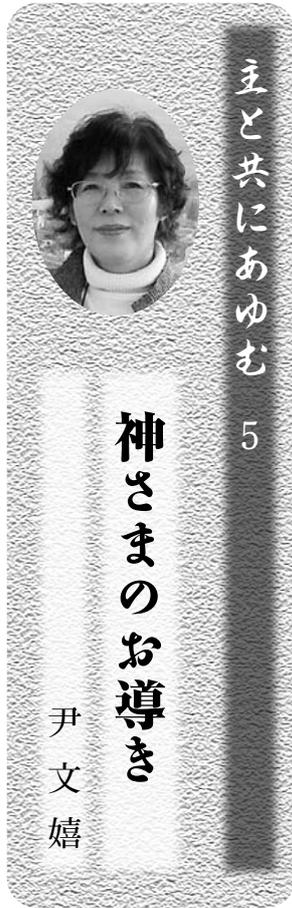
た頃、友達とは東京へ、シスタはイギリスへ行き、私もまた教会と縁遠くなりました。それから私は日本に来て、自分がクリスチャンであるという意識を持たずに過ごして

いたある日、夫が突然借金だけを残して家を出て行きました。保証人たちとサラ

主と共にあゆむ 5

神さまのお導き

尹 文 嬉



人からの誘いで行った教会は、一度でも欠席すると牧師と何人かの信者が訪ねて来た為、まじめに教会に通い、洗礼も受けるようになりました。し

いと知り合いになりました。仲良くなるにつれ、礼拝にも出席するようになって堅信も受けました。仲の良い友達も教会に来るようになり、教会での楽しい時間が3年程過ぎ

金業者の対応も大変でした。日本語もあまりわからない状態で誰もいない日本社会でどうすればよいかわかりませんでした。韓国語ができない小学2年生の娘が、韓国に適応

できるかということも心配でしたが、韓国へ帰る道しかないと思えました。兄弟や友人と話し合ってみるため、韓国へ行った時、ほぼ10年ぶりに聖公会の大聖堂に入りました。その瞬間、ほんとうに驚くことに、神様が迎えてくださっている」と感じました。信仰心は全く持たず、形式的に教会へ通っていたうえ、長い間教会と離れて過ごしていた私を招き、神様の存在を知らせてくださいました。

どのような逆境でも乗り越えられるような勇氣と自信がうまれ、悩んだり心配したりしたことが嘘のように心が平和になりました。日本に戻ってからは、昼は

大阪教区第102定期教区会

聖トマス教会の土地購入など

全議案が承認

大阪教区第102定期教区会は11月23日(月・祝)午前9時から主教座聖堂・川口基督教会で行なわれ、大西主教

教の要望で、教役者・信徒代表の全会写真撮影、文書だけでなく画像においても歴史に残る教区会となった。

午前は、常置委員会報告、教務局報告、各種委員会報告が承認され、午後には各種担当者報告及び諸学校・諸施設関係チャプレンの報告の後、議案審議とその決議が行われた。議案審議は石橋聖トマス教会の隣接地購入における教区からの二千万円の融資、声

屋聖マルコ教会の付属幼稚園である愛光幼稚園遊戯室建築のための教区からの貸付一千五百万円、愛光幼稚園学校法人化に伴う基本財産変更、教区教役者養老厚生基金運営細目改正、2010年度一般会計予算案の五項目で、全ての議案が承認された。常置委員

パートで働き、夜は遅くまで内職をする生活でしたが、大変だとは思いませんでした。娘は楽しく学校生活を送り、昨年度を卒業し、社会人になりました。そして、神様と一緒に弱くても勇敢になれ、不足していても豊かで、貧しくても幸せになれるということを知りました。

根が浅い私の信仰は、今も弱い雨風にでもよく揺れています。けれども、深く根を下ろせるように祈る生活を送りたいと思っています。(ゆん むに 聖ガブリエル教会信徒)

会選挙では聖職委員に竹内信義、山本眞、山野上素充の各司祭が、信徒委員には佐野信三、長野泰信、鈴木光子の各氏が選出され、総会代議員に岩城聰、山本眞各司祭と佐野信三、長野泰信各氏が選ばれた。議会は順調に進行し午後5時30分に閉会した。(編集部)

大西主教が教区会演説

厳しい現実見つめ
感謝と喜びを表そう

本日、第102（定期）教区会開催にあたり、教役者議員、信徒代議員の皆様がお集まりくださったことに対して、心よりお礼申し上げます。

主教としてこの1年間を振り返り、所感を述べさせていただきます。

まず日本聖公会（管区）にとりましては、記念すべき宣教150周年の年でありました。「主教会教書」にも記されておりますように、1859年、ウイリアムス司祭（後の主教）の長崎上陸以来、日本聖公会は歴史に残る数多くの出来事を通して、主イエス・キリストを信じ、証しし、聖霊の導きのもとに歩んで参りました。しかし、その歴史を顧みるとき、それは決して喜ばしいことばかりではなく、時としてみ心に背き、神と人々を傷つけ、悲しませ、悩ますこともありました。この事実を謙虚に受けとめ、主の

み前に懺悔し、新たな宣教の

第1歩を踏み出すために「こぎ出せ、沖へ」のスローガンのもと、9月23日、東京カテドラル・聖マリア大聖堂においてローワン・ウイリアムズ・

カンタベリー大主教のご臨席を得て、記念礼拝をおささげいたしました。3,000

人を超す人々が感謝賛美の聖餐式に列なることができ、大阪教区からも100人以上の

方々が記念礼拝と22日の記念行事に出席されたことは大きな喜びでありました。

さて、次に教区の事柄について述べたいと思います。

この1年間で、全教会を平均2回巡回することができました。22の教会がそれぞれの

地域にあつて固有の宣教課題を持ち、与えられた課題に悪戦苦闘しながらも誠実に取り組んでいる様子を垣間見ることができました。とりわけ、

定任教役者のいない教会の信

徒の皆様のご苦勞に敬意を表します。また今年、石橋聖トマス教会が創立50周年、堺聖テモテ教会が創立120周年を迎え、お祝い出来たことは本当に感謝でした。

当教区は現在、現職教役者が19人であり、司教1、司祭16、執事2。退職教役者5人には囑託として、また京都教区の教役者2人に月1回、主日礼拝のお手伝いをしていただいております。

教役者の異動につきましては、バメラ・クーパー司祭（CMSから派遣され41年間働かれた）が3月31日をもって定年退職、英国へ帰国されました。新たな人事として田宮紘

執事を4月から釜ヶ崎地区の宣教担当に任命いたしました。大韓聖公会ソウル教区からの

宣教協働者趙鍾必執事は5月27日、ソウル大聖堂において司祭に按手されました。

そして4人の神学生が4月から聖職候補生に認可され、神学校で2年目の学びを続けており、そのうち1人は来春

4月、牧会の現場に出て勤務する予定であります。海外宣教協働関係では、台

湾聖公会との宣教協働関係が2期2年目に入りました。人事交流を主に、共有する

宣教課題を分かち合う方向へとさらに具体的に進めていくために、

台湾交流委員会を中心と考えております。今夏、台湾を襲った台風の被災地などに

対する教会を通しての支援募金に、多くの方が協力く

だされたことに対して熱くお礼申し上げます。

大韓聖公会との協働は、在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会、聖公会生野センターなどと連携しながら、教区レベル

で協働できる事柄を見つけ、取り組んでいきたいと考えております。教区間協働ですが、これは管区としても大きな宣教課題であり、近い将来には教区間



教区会で初めて出席者一同の全体写真が撮られた。（主教座聖堂で）

の合併をも視野に入れたものになるであろうと思います。大阪教区は今年6月24日、京都教区との間で「宣教協働に関する合意書」を取り交わし、

これまでの協働関係をさらに推進することに合意いたしました。これまでは、教区・教役者レベルでの協働関係が主でありましたが、これからは

信徒の皆様の目に見える形で

の教会レベルの取り組みも推（次頁につづく）

(前頁からつづく)

進んでいくことが期待されており、検討していくことになっております。

「時が良くても悪くても、福音を宣べ伝えていくこと、み言葉の種を蒔くこと」は、神から私たちに託された使命です。教区・教会の将来を考えていくことも、そのための大切な課題の一つとして位置づけられるのではないかと思います。

3月の第101(臨時)教区会後、宣教懇談会が引き続き開催され、各教会から提出された教区・教会の宣教課題について意見交換がなされました。その報告書「各地区懇談会記録」をさらに検討し、宣教課題を具体化していくために6月、「教区の今後を考える小委員会」を主教の諮問機関として設置いたしました。今教区会で、その報告がなされます。一つのことを始めるには、多くのエネルギーと相当の準備が必要ですが、主にある希望をもって、それを煮詰め、出来ることから皆さんと一緒に取り組み、実施してまいります。

昨今の教会を取り巻く状況は、どちらかといえばやや暗くて元気がなく、明るい話題が少ないのではないのでしょうか。確かに現実には厳しい、しかしその現実の厳しさから逃避するのではなく、その厳しさの中にあつて、主に支えられ、生かされている今の時を見つめ、感謝と喜びを表わす生活をしていくこと、これこそキリスト者としての証しの生活以外の何ものでもないのではないのでしょうか。教会の中には明るい笑顔と喜びと賛美の声が満ちあふれ、一人ひとりがそれに気づいて、その中に加わる時、教会はキリストによって変えられていきます。教役者がそして信徒一人ひとりが主の霊に満たされる時、何らかの新たな変化が教会のうちに起こることを信じます。

次に2008年度の統計に表れた教勢について触れておきたいと思います。

現在信徒数3,280(うち女性2,021)、受聖餐者数2,388(同1,552)、現在受聖餐者数1,913(同1,264)、一主日平均礼

拝出席者数930(同557)、同陪餐者数778(同501)、受洗者42(27)、堅信式受領者33(20)、逝去者49となっています。

5年前の2004年度と比較してみますと、現在信徒数が301、受聖餐者数230、現在受聖餐者数206、一主日平均礼拝出席者数73、同陪餐者数30とすべてが減少しております。

受洗者、堅信式受領者、逝去者についてはその年によって若干の相違がありますが、現在受聖餐者数1000人規模の教会がこの5年間で2つ消滅した計算になります。

統計上の数字はどこまでも一つのデータでしかありませんが、明らかに一つのシグナルを送っています。このことを真摯に受けとめて、個々の教会の実情と照らし合わせながら、これからの教会について思いを巡らせていただきたいと思います。

統計を見ておわかりの通り、教会の信徒の60〜70パーセントは女性です。教区・教会の働きの中で女性の占める割合は現在もまだまだ低いと言わ

なければなりません。是非とも、多くの場で女性が選ばれ、用いられ、活躍されるようになっていきます。

ところで今般、ある教会における信徒代議員の選挙方法について、一信徒から主教に対して疑義が提出されました。調査の結果、信徒代議員の選挙を法規に従い、投票によって行っている教会が約半数しかないことが明らかになりました。このことにつき、主教は各教会の牧師に対して、法規に従い12月に行われる2010年度の信徒代議員の選挙からは、投票によって行うように指示いたしました。律法主義的になることは極力避けたいと思いますが、大枠として法規が示すルールを守ることは大切であるからです。

なお、今教区会における信徒代議員の資格の有無については、今回のみ、投票によって選出されていない教会の信徒代議員についてもその資格を認めることといたしました。最後にありますが、教区と関わりの深い諸施設への訪問もさせていただいております。今日では、それらは宗教学法

と法人格を異にする社会福祉法人、学校法人、財団法人などになっていきますが、歴史的に見てその存立のバック・ボーンは、申し上げるまでもなくキリスト教精神(聖公会、大阪教区)にあります。両者の関わりは分かち難く、深く、大切な結びつきをもって今日まで生きております。桃山学院創立125周年、プール学院創立130周年、ヨハネ学園創立120周年を迎えた年にあたり、これらの教育福祉医療等の働きの重要性を考えると、それらが拠って立つ所を再確認することが必要であります。これからの時代の中で、両者の関係をより前進的、積極的に見直していくべき時を迎えているのではないかと考えます。

新型インフルエンザがあちこちで蔓延しているようです。どうぞ十分な対策をおとりになりお気をつけてお過ごしください。

以上をもちまして主教演説とさせていただきます。ご静聴ありがとうございます。

2009年11月23日
主教 サムエル大西 修

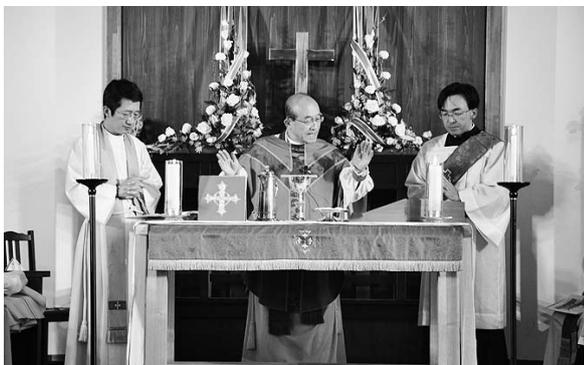
プール清心館で教区礼拝

「来ませ 平和の王」をテーマに

澄み渡る秋空の日曜日10月18日、プール学院勝山キャンパスのチャペル「清心館」において恒例の教区礼拝が行われた。説教者に立教大学チャペレンの柳時京司祭をお迎えし、式典長は松平功司祭、司式者

に大西修教区主教、補式者を齊藤壹司祭が務められた。礼拝のテーマは「来ませ 平和の王」で、日本聖公会聖歌集564番の歌詞からの引用である。このテーマから、今回の教区礼拝に「キリスト者が

ひとつの身体となつて、平和の王であるキリストを待望する」という願いが読み



取れる。柳時京司祭の説教は別掲されているが、このテーマの下で語られる、お隣の国・韓国から派遣された宣教師の言葉は非常に重く受けとめられた。午後からは、カフェテリアなどの場所、昼食を囲んでの歓談風景があちこちで見られ、新献立であるサンドイッチ100食と巻き寿司200食はすぐに完売した。また、昼食後に行われた宣教部主催の「夏の行事報告会」には、約60人の参加者があり、教区の明日を担う若人たちの現在の活動を共有した。なお、集められた信施金29万6391円は「九条の会」と「台湾台風被害支援のため」折半して送金された。素晴らし

い礼拝内容ではあったが、参加者が456人で前年比14パーセント減と急減していることは重く受けとめる必要性を感じる。

(編集部)

教区礼拝・柳時京司祭の説教(全文)

「平和は力仕事」、共に取り組んで行こう

日本には、主に会議などのために来たことがありますけれども、長く住み着いたのは、2000年12月からです。そうなるから、短めに訪ねた日本とは違った日本というものがある。一番最初の頃の記憶として残っているのは、節分の時の思い出です。赴任一年目の3月に、下の子は小学校2年生でしたが、学校から帰って来ては豆を撒き散らしました。そして「鬼はそと、福はうち」と声高に言っていました。まだ日本語がまいちの時でしたが、この言葉だけは分かるくらいだったので、自分としては不思議に思いました。というのは、いわゆるグローバル時代、世界化時代と呼ばれる21世紀の時代に、この豆まきの掛け言葉は、ちょっと違うのでは、と違和感を感じました。鬼は外、と言ったとき、この「外」はいつかどこなのか、そして「福は内」

というところ、この時の「内」は、果たしてどこを指しているのか、という疑問が自分の中から湧いて来たのです。一人の家を基準としたら、外は道端で、内は自分の家になるでしょう。もし、ある地域や町が基準になれば、どうなるでしょうか。「外」は自分の住んでいる町以外のところとなります。また一つの国が基準となれば、「外」は隣の国になるのではないかと。このように素朴な疑問がありました。もし日本から見ると、太平洋側だと、アメリカははるか遠いので豆など投げても届きませんが、反対側、日本海の方だと、まさか朝鮮半島が目の前に置かれているのではないかと、思ったのです。まさか、という思いでした。いかがでしょうか。このように感じてしまったのは、あまりにも敏感すぎたでしょうか。

(次頁につづく)

(前頁からつづく)

この豆まきの元の由来から考えますと、やはりその時の私の気持ちは考えすぎだったかも知れませんが、視線を変えて、第三者の立場から物事を見たとき、私たちは今までの固定観念とは違った側面に気付くこととなります。私は、聖書は、そして私たちの信仰というものは、まさにこのように視線を変えて見ること、立場を変えて物事を見つめ、私たちの人生や日常生活を見つめ直すことを、常に私たちに求めていると、思っています。ことに福音書に書かれているイエス様の様々な働き、人々との出会い、弟子たちと共に旅を続けながら経験された数々の出来事を読んでみますと、こういうことがはつきりと分かっていると思えます。例えば、先の豆まきの話を改めて考えてみます。もし日本の古き良き習慣、習わしではなく、イエスの視点から、クリスチャンの視点から豆まきを考えますと、私は豆を撒く時の掛け声を変えるべきだと思います。つまり、「鬼はうち、福はそと」ではないでし

ようか。

今日の旧約聖書のイザヤ書 53章の言葉は、次のように伝えていきます。「彼が担われたのは私たちの病、彼が負ったのは私たちの痛みであったのに、私たちは思っていた神の手にかかり、打たれたから彼は苦しんでいるのだ」と。彼が刺し貫かれたのは、私たちの背きのためであり、彼が打ち砕かれたのは、私たちの咎のためであった。病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ、彼は自らを償いの捧げ物とした。彼が自らをなげうち、死んで、罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人の過ちを担い、背いた者のために執り成しをしたのはこの人であった。「イザヤ預言者のこの言葉は、数千年の隔たりを持ちながらも、イエスの働きに託された神様のみ業を、見事に語っています。イエスは、私たち人類の罪を背負い、私たちの過ちをご自分のものとして、十字架につけられ、犠牲となりました。このようなイエスの働きを、私たちが倣おうと

するとしたら、豆まきの言葉は、祖先の方々には申し訳ないけれども、変えるべきではないでしょうか。むしろ私たちは「鬼はうち、福はそと」と声高に言いながら、イエスの弟子として、世間の常識とは違うことを、神様の視線から見た時のメッセージを、自分自身に向けて、また世間に向けて言うべきだと思います。

今日の福音書(マルコによる福音書10章35-45節)は、弟子の二人の勝手な願い事を巡って、イエスがそれを叱り、また他の10人の弟子が腹を立てている場面を伝えていきます。弟子たちは、少なくともこの二人は、イエスと共に旅をしながらも、イエスの目指す道とは違う道を歩んでいました。他の10人も二人に怒っています。実はそれほど変わりのない勝手な夢をイエスに託していたかも知れません。結論から申しますと、イエスは「10章 偉くなりたい者は、

ユシギヨシ 柳時京 司祭
プロフィール



1963年(昭和38年)韓国ソウル生まれ。聖公会ソウル出身。聖公会神学大学、大学院を経て1995年にソウル教区司祭。富川教会、仁川閔石教会、江華島松山教会牧師。宣教100周年記念行事事務局総幹事、教務院(管区事務所)宣教・広報主事、日韓協働委員会幹事、NCC国際委員会、聖公会大学の企画部長などを経て日本へ。2000年12月から立教大学のチャプレン。妻金香媛氏と二人の男の子と東京在住。現在管区日韓宣教協働委員会、日韓聖公会宣教師派遣・招聘委員会、在日韓国聖公会出身教役者会世話人、詩人、立教の会事務局長。

皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者はすべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を捧げるために来たのである。」と教えられました。実は、ここまで言うてしまったら、これ以上皆様に言うことはありません。イエスのこの言葉こそ、私たち信仰者、クリスチャンたる者が肝に銘じて努めていくべき道を教えているからです。しかし、私は、もう少しイエスのみ旨をご一緒に考えてみたいと思います。聖書は、全体的に読んでみると、聖なる神様の言葉であると同時に、私に言わせれば、「平和」の書でもあると思います。旧約聖書の創世記からヨハネの黙示録に至るまでの聖書全体は、到る所で「平和」を語っているからです。ことに新約聖書だけで「エイレネ」というギリシャ語の訳語の「平和」という言葉が、百回以上出てきます。復活のイエスの言葉からも「あなたがたに平和があるように」、そして有名な山上の説教には、「平和を実現する人々は幸いです」という、クリスチャンだけではなく、世界中に知れ渡っている言葉があります。この山上の説教を思うと、

私は一つのエピソードを思い出します。大学で働いているので、学生の主な関心事や話題を共に話し合うことも多いので、一つご紹介したいと思います。ある大学生がテスト

の準備で勉強をしましたが、翌日教室で問題用紙を受け取ったら、さっぱり分からなくって、半ばあきらめました。ところが、いろいろ思いめぐらしている所、ひらめきがありました。「そうだ、この科目の先生はクリスチャンだ。」と思い、聖書の言葉で救いを求めました。「憐れみ深い人々は幸いである。マタイ福音書5・7」と、大きく書いて回答用紙を出し、採点を待ちました。やがて先生から成績発表があり、この学生はドキドキしながら成績欄を見ましたが、なんと「〇点」でした。がっかりしながら下を見たら、そこには先生の直筆で次のように書いてありました。「悲しむ人々は幸いである。その人々は慰められる。マタイ福音書5・4」素晴らしい学生に、さらに素晴らしい先生ではありませんか。聖書の言葉で以って救いを求める学

生が、もし立教にいたら、私は60点くらいあげても良いと思います。それくらいセンスの良い学生であれば、一度救ってあげても良いでしょう。

さて、このマタイによる福音書の5・9こそ、皆さんが良くご存である、先ほど紹介した「平和」についての言葉です。この言葉を注意深く見てくださいと、「平和のために働く人々は」となっています。新共同訳では「平和を実現する人々は幸いである」と訳されていますが、ここで大事なのは「具体的に平和のために何かをする、実践する、取り組む」ということです。イエスは「平和のために祈る」とは仰っていません。「平和を考える人々」とも、「平和について語る」とも教えていません。あるいは「平和のために働く人々を助ける」とも「その人々を良く理解している」とでもなく、はっきりと「平和を実現する人々に、平和のために働く人々に」、世間の基準から見た時の幸いとは違う喜び、幸せがあると教えておられます。祈るのも大事、

考えるのも大事ですが、それだけでは足りません。イエスは、物足りなくない豊かな生活や、贅沢な食事や住まい、お洒落な服装や物によって得られる、モノ中心の平安、安心、安定的な生活ではなく、「平和を実現する、平和のために働く人々」にだけもたらされる、真の幸いを教えておられます。

長崎出身のシンガーソングライターでタレント、小説家としても活躍している歌手の佐田雅志さんは、いつか平和について次のように言いました。「平和って力仕事ですね。」この「まっさん」が言う「力仕事」というのは、私たちがマタイの福音書でイエスが仰った「平和」を考える時に、とても重要なポイントを示唆していると思います。たとえば、「憲法9条」の問題で何かを、と考えますと、力仕事はつきものです。沖縄の辺野古基地問題もそうでしょう。今私は朝鮮半島の平和統一のための宣教活動に少し関わっています。まさに「力仕事」そのものです。訳の分からない国、北朝鮮を相手に

して、北の関係者と話し合いを続けることは、大変な仕事です。そして、今の韓国政府の関係者の頑なな考え方との戦いも尋常ではありません。しかも、今の日本社会の中で、もし北朝鮮のことを言おうとするならば、まさに力仕事を覚悟しなければなりません。

今韓国の聖公会は、主に人道支援活動を中心に北朝鮮に対する働きかけをしておりますが、日本海の方の金剛山近辺の温井里村の人々に練炭という燃料を提供しています。一度行く時に5万個の練炭をトラックに積んで、住民に直接渡します。人道支援の原則は、原材料を渡すことは出来ません。あくまで他の目的に回される恐れのない、完成製品だけを支援することになっています。そして西の方の開城という昔高麗王朝の都だった地域のボンドン村の住民にも同じく練炭を支援しています。また、北朝鮮の子供たちのためにピョンヤンの南の港町、南浦という町の産院に、200ミリ牛乳パックを支援しています。南の韓国の農

家で生産した牛乳をパックにして、仁川から船便で運びます。今年1月に練炭5万個、そして3月に牛乳2万パックを支援しましたが、ご存じのようにそれ以来道が閉ざされ、最近まで支援活動は出来ませんでした。やっと9月末になってから、クリントン元アメリカ大統領の北朝鮮訪問の後から、少し変化が見えてきました。今韓国聖公会の「T O P I K」(Towards Peace in Korea)朝鮮半島の平和統一及び北東アジア全体の和解と平和の実現に向けて」という

平和統一宣教のための事務局は、11月中旬の人道支援を目指して、練炭や牛乳の支援のための手続きや募金活動をしております。日本聖公会も管区の日韓協働委員会と正義と平和委員会を通して、募金活動に参加するための下準備をしております。実は2007年度に韓国で開かれた世界聖公会平和大会の宣言文が翌年の日本聖公会の57回定期総会で決議13号として採択されましたので、その総会決議に基づいて、これから皆様のところ

(前頁からつづく)

るにも支援を呼びかける文書や支援チケットなどが届くことになると思います。隣が、いつ何が起こるか分からない爆弾を抱えたままだと、日本の今の「平和」に見える静かな様子は、実はとても不安定な「半分の平和」です。朝鮮半島、韓半島の平和なしに、日本の平和はありませんし、世界の平和にも影響が及ぼすでしょう。是非、世間という北朝鮮バッシングや一般論ではなく、信仰者として、神様の目線で、イエス様の「平和を実現する人々。平和のために働く人々」として、大阪教区の皆様が一步踏み出してい

ただくことを、心から願っております。私たちには、政治的な「鞭と飴の綱引き」ではなく、困っている人々を助ける、愛の働きが求められているのです。

とも詩集を出したこともあり

ません。この詩人は、今の北朝鮮と中国の国境線近く吉林省の北間島に生まれ、そこで小学校に通い、今のピョンヤンで中学校、そしてソウルの延世大学を卒業した後、さらに勉強するため日本に渡りま

すが、43年7月10日、故郷へ帰る支度をしていた彼は、特高警察に逮捕され、裁判の結果2年の実刑を宣告され、福岡刑務所に入れられ、45年2月16日に、27歳の若さで獄死しました。詳細は後でプリントをご覧くださいだけ

けたことが、罪でした。しかし、小説や詩と言った文学作品は、自分の言葉で書くときこそ、心の中の本音が書かれるし、そうせざるえないものでしょう。緑のプリントの年表の下にある詩の一部を

読みます。「窓辺に雨がささやき、六畳部屋は他人の国／詩人とは悲しい天命と知りつつも一行の詩を書きとめてみるか、汗の匂いと愛の香りふくよかに漂う送られてきた学費封筒を受け取り(飛ばしませんが)人生は生き難いものなのに、詩がこうたやすく書けるのは恥ずかしいことだ。／灯火をつけて暗闇を少し追いやり、時代のように訪れる朝を待つ最後の私／私は小さな手を差し伸べ、涙と慰めで握る最初の握手」このように落ち込んだ自分を励まして、新たな決意で生きて行こうとした彼は、残念ながら祖国の解放を見ることも出来ず、召されてしまいました。

私は、彼の短い悲しい生涯の中で、今のグローバルゼーションとは違う、強いられた国際化というものを感

た。韓国留学生10名を対象に毎月5万円ずつ12か月間、600万円を支給することです。尹東柱の後輩たちが、安心して学ぶ少しばかりの環境が出来たことを、感謝しています。

植民地青年の彼にとって、夢を掴むには、やはり植民本国である日本というのが、憧れの、最善の選択だったに違いありません。しかし、彼を待っていたのは、悲しい牢屋での寂しい死でした。彼は中国、朝鮮半島、日本列島を繋ぐ国際的な足跡を残しましたが、それは歪んだ国際化、不本意な国際化の道でした。今の私

には、彼のような不幸な国際化ではなく、真の国際化、一方通行的な、力関係による強要された、押しつけられた国際化ではなく、お互いに、尊重し合う、認め合う、「平和」を作り出す国際化が求められていると信じます。今日日本には、ことに大阪には、嘗ての歪んだ一方的な国際関係の産物として、負の遺産とも言うべき在日の存在、また多くの外国人が住んでいます

た。韓国留学生10名を対象に毎月5万円ずつ12か月間、600万円を支給することです。尹東柱の後輩たちが、安心して学ぶ少しばかりの環境が出来たことを、感謝しています。

先月日本聖公会は宣教150周年を迎えました。「漕ぎ出せ沖へ」という聖書の言葉をスローガンにしましたが、この次の言葉を是非覚えていただきたいと思

います。「網を降ろし、魚をとりなさい。」今日の使徒書、ヘブライ人の手紙の14節は、このような「私たちの公に言い表している信仰をしっかりと保とうではありませんか」と、呼びかけています。日本社会という海に漕ぎ出して行つて、さらに深い海、沖へ、悲しんでいる人々、義に飢え渴く人々、義のため迫害を受けている人々が嘆いている深い海に希望と信仰と愛の網を降ろして、手を差し伸べる平和の働きに、共に取り組んで行きたいと思

います。父と子と聖霊のみ名によつて、アーメン。

大阪教区婦人会
秋の修養会

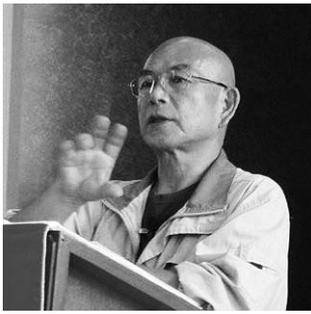
本田哲郎神父を迎え

「愛より大切を」をテーマに

石田 博子

10月19日(月)午後1時から、石橋聖トマス教会で、教役者5人、男性8人、聖公会以外の6人を含め参加総数172人のもと、講師にカトリック神父・本田哲郎師をお迎えし、福音記者ルカの日に開催されました。

本田神父は上智大学修士課程を経て29歳で神父、フランシスコ会管区長も務められ、現在釜ヶ崎反失業連絡会共同代表、釜ヶ崎「ふる里の家」で日雇労働者の人たちのために20年のお働きがあります。「愛することよりも大切にすることを求めたい」というテーマでお話を伺いました。



お話される本田神父

神さまはどこにおられるのか、私の隣人は誰か、自己中心的では見つからない、隣人を一番必要としている人の側に立つて神様は働いておられる、アガペーは愛ではなく大切に思うこと、愛することに努力することはない、決して無理しないこと、まず好きになること、そうすると大切にしようという思いが出てくる、それが思いやりや忍耐へとつながり、自然と相手のことをよく見て、よく聞こうとする、それがその人をよく知ることとなり尊厳へとなる、愛することに努力するのではなく愛は、ほとばしるものであるというお話でした。私も無理をせず、常に相手の側に立って神さまと共に歩んで行きたいと思いました。

最後に、釜ヶ崎の炊き出しにもふれられ、一時しのぎには必要不可欠なものかもしれないが、人に関われば社会が

見えて来て、行政、制度、社会活動そのものの有り様も変わらなければならぬとおっしゃっていました。

連合男子会一泊修養会

主題 『今、わたしに必要なこと、わたしたちに必要なこと』

今、わたしにできること、わたしたちにできること』

なお、当日募金箱献金43,020円は、サモア、フィリピン、スマトラへ、また当日席上献金175,000円は

釜ヶ崎「ふる里の家」のお働きのためにお献げしました。(いしだ ひろこ 大阪聖愛教会 信徒)

連合男子会結成45周年を記念する一泊修養会は10月11日(日)午後3時から翌12日の



午後3時にわたって、ひょうごいこの宿「六甲保養荘」にて行なわれた。澄み渡る秋晴れのもと、参加者は部分参加も含めて64人(内女性2人)となった。名出 敬さん(川口基督教会)による開会祈祷で始まり伊藤良三会長の挨拶のあと大西 修主教から基調講演がなされた。当初2日間 にわたって主教からお話を頂く予定であったが12日の中部教区主教選挙に伴い、大西主教が名古屋に赴かれるため、井上進次執事による夕の礼拝、夕食の後、再度基調講演をして頂くこととなった。主教はあらかじめレジュメを用意されており、それを基に話を進められた。

ペテロ 鈴木 憲二

『今、わたしに必要なこと、わたしたちに必要なこと』と題し、その中で「大阪教区の実情、現状を考えなければならぬが、ともすればうわついた感じの中でそういった問題をとらえていないだろうか。信仰的な基盤に立ってこういう問題をとらえているかどうか。その辺のところをしっかりと検証する必要がある」と力説された。また、イースターの直前に「洗礼の約束の更新」があるが自分たちの信仰のふりかえりを真摯に受け止め、懺悔をし、人との関係の中にどう生きる方をしていくかを気づかねばならないことを話された。

(次頁4段目につづく)

賴榮信台湾教区主教が大阪を訪問

石橋聖トマス教会で親交の一日

カタリナ 早川 文子

米国聖公会台湾教区主教賴榮信神父が日本聖公会150周年記念礼拝出席のため来日され、姉妹教区である大阪教区を訪問された。

9月27日主日に石橋聖トマス教会で「神様と親しくなる・忠実な僕となる」と題し



館には二百以上の急須のコレクションをお持ちとのこと。

夜には大阪教区台湾交流委員会主催の夕食会が開かれ、大西主教はじめ委員会担当の司祭方、信徒メンバー、聖トマス信徒が参加し、和やかなひと時が持たれた。台湾の聖公会の状況についてお聞きしたところ、司祭、信徒共に若い世代が多く、とても活気があるとのこと。幼稚園を付属している教会が多いが、その評判がとも良く、経営状態が良いということ等を話され、とてもうらやましく感じた。

台湾聖公会での修養会に松平功司祭が参加されたことがご縁。昼食後松平司祭、松尾さん、信徒と共に宝塚の清荒神を散策し、日本情緒を少しだけ味わった。

賴主教は大変気さくでユーモアのセンスをお持ちの方。野球や卓球のスポーツをなされ、天文学や音楽にも造詣が深い。いつも車で台湾中を駆け巡っておられるそう。又、大のお茶愛好家で外国を旅行する際には、中国茶、急須、電気湯沸しポット(百ボルト、二百ボルト用両方お持ち)は欠かさず、台湾聖公会の主教

毎主日の台湾聖公会のため

の代禱がより身近に感じられ、石橋聖トマス教会でも台湾訪問のツアーを企画したいという話になった。両教区の信徒レベルの交流がもたれることを期待したい。朝のホテルへのお迎えから夜の夕食会までの一日、聖トマス教会の司祭信徒が賴主教と共に過ごさせていただき、感謝な一日となった。松尾さんの一日を通しての通訳のお働きには特に感謝したい。

(はやかわ ふみこ 石橋聖トマス教会信徒)

(前頁からつづく)

「今、わたしにできること、わたしたちにできること」のテーマでは具体的な取り組みとして、教役者養成・京都教区との教区間協働の推進・青少年活動への取り組み・生野センターの働きへの協働・釜ヶ崎での宣教課題の作成・信徒、教役者の学びのコースなどの設置など10の課題が示された。講演後、翌日の中部教区主教選挙の議長を果たされる主教の任と、無事に新しい中部教区主教が誕生すること全員で祈り、大西主教に感謝を述べてお送りした。

その後懇、親会はアルコーも用意され、うちとけた柔らかな雰囲気互いに話し合った。ここでも主教の語られた言葉が思いだされる。「酒を飲んで本音を話しあうより



も、しらふで真剣に話し合う方が大事だ」と。

甲山越しに大阪湾から昇る朝日を眺めた翌12日は福田光宏司祭による聖餐式が行われ、その後5グループに分かれて基調講演に基づいて話し合いがもたれ、具体的に何ができるか、実践的なことを焦点に活発に論じ合われた。基調講演の感想に「目からうろこが落ちた」「キリストにある一致が大切」「世代交代の重要性」等などが上げられ、その後グループごとのまとめとして「基本に立ち返りクリスマスチャンラしく生き奉仕する」「聖職志願者出さなあかんやろー」「世代交代せなあかんやろー」「宣教のための新しいツールの開発」など各グループのまとめの発表があり、黒田益弘実行委員長がこの修養会を通じて自分自身も大きな変革を与えられたことを話され、スタッフや協力者、参加者のみなさんに謝意を表された。なお、この日の席上献金48,660円は台湾台風被災者のために献げられた。

(すずき けんじ 尼崎聖ステパノ教会信徒)

新しい宣教モデルを求めて ～分かち合いの家訪問記

2009年度ウイリアムス神学館・韓国海外研修の学びから

林 正樹



写真左端が林正樹聖職候補生、中央は千松清美聖職候補生

ウイリアムス神学館の海外研修で、7月11日～20日に大韓聖公会ソウル教区を訪問しました。今回の研修は、大韓聖公会ソウル教区協働宣教者として京都聖ヨハネ教会を司牧されている韓相敦^{ハンサンドン}司祭のコーディネートでした。ソウル教区の聖公会の6つの教会、聖架^{ソング}修女院(ソウル大聖堂隣接の女子修道院)、9つの社会宣教諸施設や聖公会大学のほか、韓国の歴史資料館を訪れました。今回、実際

に大韓聖公会の礼拝に参加して、まず韓国における聖公会の非常に多様な礼拝スタイルに驚きました。聖餐式はソウル大聖堂とソウル教区で2番目に新しい急成長している東水原^{ムソウ}の弟子教会の主日礼拝で陪餐いたしました。両者の礼拝は対照的で、前者はアングリカンの伝統を継承する荘厳なハイ・チャーチ様式に比べ、後者は非常に現代的で、電子楽器を加えた賛美による礼拝は、冷静と情熱が共存する大韓聖公会のスピリチュアリテイ(霊性)を体感することができました。また豪雨の中、参加した、永登浦^{ユンデングポ}教会の家庭集会では熱い祈りとホスピタリティ(もてなしの心)に感動しました。また同時に訪問したソウル教区の社会宣教活動は多岐に渡り、事業内容も外国人

労働者、ホームレス、障害者、青少年、高齢者に至るまで年齢も状況も幅広く地域の必要とされる状況に対応されていきました。特に印象に残るものは、再就職の斡旋の仕事をするタシゾギ(ソウル路宿人^{ロストソウル})センターで、ここでは実際に給食サービスのお手伝いを体験できました。10日間、多くの韓国人の人々に出会い、熱い祈りに満たされ一つの思いを共感することができました。この報告会では、実際に訪問で映したスライドと動画も見ながら、訪問日程を追ってご報告いたしました。

(はやし まさき 聖職候補生)

11月16日に大阪聖パウロ教会で開催された、在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会主催による訪韓報告会について、その内容を林正樹聖職候補生に綴っていただいた。(編集部)

世界の窓

○世界エイズデーに向けて
12月1日の世界エイズデーに向けて、キャサリン・シヨリー米国総裁主教は、「過去30年にエイズのために命を落

とした2500万人の子ども達を覚え、エイズのない未来を造ることが彼らへの甲いである」というメッセージを綴った。そのメッセージの中で、師は全世界の聖公会がその目的のために何物をも優先して行動を起こすべき必要性を語っている。

(Episcopal News Service November 23, 2009)

○古カトリック教会との会議
古カトリック教会と英国教会は英国カンタベリーにおいて、10月26日から29日まで小委員会を開き、両教派における共同陪餐やエキユメニカル

会を行なった。この会は、2011年に予定されている「英国教会・古カトリック教会国際合同会議」に向けてのテーマ策定を推進させるものである。なお、古カトリック教会とはローマ教皇の不可謬権を認めず、1870年代にローマ・カトリック教会から離脱した教派。

(Anglican Communion News Service November 4, 2009)

小さくされた人々のための福音

— 四福音書および使徒言行録 —

本田哲郎神父 訳

音声訳 完成

この度、大阪教区 点・音訳の集い「ことのほ」によって、四福音書(12巻)と使徒言行録(3巻)および付録(1巻)の全16巻の録音が完成しました。

ご要望の方は

大阪教区事務所 (06-6621-2179)

または岡部美枝 (06-6672-3719) 迄

ご連絡ください。

教区の動き

常置委員会報告

10月13日(第11回定例)

1. 主教報告

① 10月12日開催の中部教区主教選挙の結果は、澁澤一郎司祭が当選した。

② カンタベリー大主教より今回の訪問について礼状が送られて来た。

③ 聖公会生野センターは教区会に報告書を提出することとした。

④ ミッション・トゥ・シーフ エアラーズの退職司祭/ジョン・バーク師に10月より大阪教区・英語礼拝(於: 聖パウロ)の司式を手伝っていただくことになった。

2. 教務局長報告

① 米虫克次職員より9月の經常会計収支につき説明がなされた。年金厚生費616,000円の内、500,000円は教役者および夫人の健康診断費用であるが、

現実には2名が受診しただけなので、もつと利用されるよう望む。

② 桃山学院125周年のお祝い金は10万円とした。

3. 協議事項

I. 前回議事録(9月8日・第10回)を承認した。

II. 石橋聖トマス教会より教会改築に関する説明および要請を受けた。

III. 第102(定期)教区会に出される案件を確認した。

11月10日(第12回定例)

1. 主教報告

* 11月21日、(社福) 聖ヨハネ学園創立120周年記念礼拝が行われる。

2. 教務局長報告

① 2009年度10月分収支決算報告を承認した。

② 台湾聖公会への各教会分からの災害義援金は教区礼拝分を合わせて、台湾ドルで

3. 協議事項

早急に送金する。

I. 石橋聖トマス教会の隣接する土地取得(約5,700万円)に関して、管区からの借入金2,000万円を認めたいとの主教の意向を了承し、教区からの2,000万円借入の要望については財務委員会での審議を経て教区会に議案を提出することにした。

II. 教区会信徒代議員選出方法に関して、日本聖公会法規通り、すべての教会で原則として投票によって選挙すべきであるという主教の指示に同意した。

III. 教区会信徒代議員の補欠との交代方法に関して、現在の慣行が適切かどうかについて法制委員会に検討を付託することにする。

IV. 第102(定期)教区会の開会聖餐式の信施奉献先は、大阪教区神学生後援会とする。

V. 2009年度教役者・職員年末手当支給額を承認した。以上

「キリスト教一致合同祈祷会」のお知らせ

日時: 2010年1月24日(日) 14時

説教: サムエル 大西 修主教

会場: カトリック堺教会

堺市向陵中町 6-2-3 TEL.072-252-1498

魂の平安を祈るために

阪神・淡路大震災15周年記念 追悼の集い

日時: 2010年1月17日(日) 午後7時から

場所: 西宮聖ペテロ教会

説教: 大西 修主教

「ふるさとの家」は路上生活者支援のための献品を募っています。

- 歯ブラシ
 - ひげ剃り
 - 石鹸(小)
 - 下着(新品)
 - 男物靴下
 - 毛布(小)
 - 運動靴(25.5 以上、新品)
 - ライター
 - 特大どんぶり その他
- 教区事務所に集めて下されば取りに行きます。

詳細は、
釜ヶ崎宣教担当:
執事 田宮 紘まで

教区関係教役者
逝去者記念聖餐式

◇1月13日(水) 11:00～

於:主教座聖堂(川口基督教会)

説教者 松山 龍二司祭

- 1日 宣教師 ヘンリー・ラニング (1917 米)
司祭 デイビッド・マーシャル・ラング (1946 英)
司祭 ウイリアム・ロイストン・グレイ (1950 英)
3日 主教 ウイリアム・オードリー (1910 英)
司祭 河合 堯三 (1939)
12日 司祭 ヨセフ 側垣 基雄 (1965)
司祭 ギデオン 小川 博司 (2002)
13日 伝道師 三木 八十五郎 (1918)
15日 司祭 パーシー・A・スミス (1960 米)
伝道師 寺本 房吉 (1960)
19日 司祭 ペテロ 宇野 秀太郎 (1944)
主教 アーサー・リー (1958 英)
伝道師 今泉 頼子 (1970)
20日 司祭 ヒカル 柳原 光 (1994)
21日 司祭 久永 光雄 (1937)
22日 主教 ペテロ 松本 寛一 (1980)
25日 執事 卜部 徳太郎 (1933)
30日 執事 バルナバ 寺沢 久吉 (1945)
?日 司祭 山下 有任 (1903)

◇2月10日(水) 11:00～

於:主教座聖堂(川口基督教会)

説教者 齊藤 壹司祭

- 1日 宣教師 エルザ・M・キーン (1949 英)
3日 司祭 トマス 佐藤 時雄 (1989)
5日 司祭 バークレー・フォーウェル・バクストン (1946 英)
8日 宣教師 フランシス・エドワード・ハモンド (1932 英)
10日 司祭 祖山 達三 (1941)
司祭 皆川 晃雄 (1952)
宣教師 フローレンス・マリアン・ファジル (1956 英)
13日 伝道師 マリア 奥田 ヤス子 (1949)
14日 司祭 J・ハミルトン・クインビー (1882 米)
16日 司祭 ステパノ 久保 登知雄 (1981)
17日 司祭 ジョージ・ヘンリー・ポール 1929 英)
19日 伝道師 小橋 かつえ (1964)
20日 司祭 ヨセフ 松岡 安立 (1972)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前11時から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。



祝受洗

大阪聖贖主教会

デボラ

市原やちる (11月8日)

聖ルシヤ教会

イサク

山口 恒夫 (10月24日)

リベカ

山口喜久江 (10月24日)

石橋聖トマス教会

サムエル

三島 厚次 (11月8日)



祝受洗

石橋聖トマス教会

サムエル

三島 厚次 (11月8日)

マーガレット

斎藤 是 (11月8日)

ウエスレー

松平 慶基 (11月8日)

魂の平安を

祈ります

川口基督教会

パウロ

前野 博 (10月30日・97歳)

ヨハネ

岡崎 顕二 (11月2日・88歳)

大阪聖贖主教会

マルタ

谷口 花子 (10月29日・80歳)

西宮聖ペテロ教会

ダビデ

竹村 通世 (10月25日・87歳)

モニカ

久保 方子 (11月20日・58歳)

大阪聖愛教会

マリア

加藤 ツル (10月1日・95歳)

被献日礼拝

日時: 2010年2月2日(火)AM10:30

場所: 堺聖テモテ教会

説教者: 田宮 紘 執事

主催: 大阪教区婦人会

教会・施設の動き

尼崎聖ステパノ教会

○11月1日(日)大西主教ご夫妻をお迎えして、礼拝に引き続きバザーを開催しました。近隣の方々、友達ももて楽しいひとときでした。大きな恵みが与えられ、感謝です。同月13日(金)丹波立杭「陶の里」と花山院

家庭で育たれました。

○11月15日に恒例のバザーを行いました。併せて礼拝堂で、「テモテフレンズ発表会」として、日曜学校、ハッピーコーラス、小羊会など、教会で活動しているさまざまなグループの発表会を行いました。

聖ルシヤ教会

○12月13日に創立36周年を迎え、通常の時間帯に記念礼拝を行います。クリスマス祝会は20日、クリスマスイブ礼拝は24日、降誕日聖餐式は25日にそれぞれ行います。

堺聖テモテ教会

○11月1日、逝去者記念礼拝の後、午後2時から、創立120周年記念行事の最後を飾るチャペルコンサートを行いました。景山誠治さん(バイオリン)と向山かおるさん(ピアノ)のお二人に出演していただきました。100人の聴衆が、美しい音色にうっとり聞き入りました。なお、お二人は姉弟で、聖公会信徒のご

石橋聖トマス教会

○礼拝堂建替えのための一つのステップとして、隣地約94坪を購入することが(臨時)受聖餐者総会で決定いたしました。教区や管区からの融資も承諾されました。お祈りの一つに加えていただければ感謝です。

○恒例のフライデーナイト映画会を開催します。1月15日「余命一ヶ月の花嫁」、2月19日「HACHI」約束の

西宮聖ペテロ教会

○鐘楼に聖鐘が設置された。昨年2月の総会で聖鐘募金が決議され、婦人会の努力もあり、これが満たされ9月中旬に設置された。10月25日の創立80周年記念礼拝時に聖別され毎主日に爽やかな福音の響きを周辺に届けている。

聖ガブリエル教会

○ガブリエル感謝祭「クリスマス待ち望むコンサート」が開催された。1992年に聖ガブリエル教会が現在地に再建され、同時に聖公会生野センター、こひつじ乳児保育園も開設されたことを感謝して、翌年から行われてきた感謝祭は、昨年から形を変えてミニ・コンサートを始めた。11月22日午後2時より、今年も坂本真紀さん(大阪聖パウロ教会信徒)のゴスペルとトク、矢田部宏さん(当教会

川口基督教会

○11月15日(日)の礼拝のあと、東京教区三光教会信徒・藤田太寅(たかのぶ)さんを招き、脳卒中による障害をリハビリによって克服した体験談「リハビリでわかったみ言葉の真理」を聞く会を開催した。藤田さんはNHKの人気番組「クローズアップ現代」ではおなじみのキャスターのひとり、また経済の専門家として活躍してきた方。その藤田さんが2年前の5月、北陸での経済問題の講演のとき、突然、脳出血で倒れ、華々しい働きから一気に身体が動かなくなるという「どん底」を経験。以後、東京に戻ってリハビリに専念し、いまではほとんど回復された。その経験も含めたNHKスペシャルもすでに放映され、

信徒・作曲家)のオルゴール演奏のひとつを楽しんだ。参加者は教会員、保育園職員、卒園児と保護者など。インフルエンザの影響で、30数人と少なかつたのが惜しまれる。

お詫びと訂正

前号に記載された川口基督教会の逝去者、庄司豊子さんの漢字を庄司豊子さんに訂正させていただきます。謹んでお詫び申し上げます。

